

令和3年度  
事業報告書

令和4年5月

## 目 次

1 課題解決に向けた取り組み	-----	P1
2 数値目標	-----	P6
3 利用実績	-----	P6
4 職員研修の参加状況	-----	P7

令和4年3月31日現在

1 課題解決に向けた取組

サービスの質の向上

課題	ご利用者（ご家族）が現行のサービスに満足をされているか
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年実施している利用者・ご家族満足度アンケートを実施する。（12月）</li> <li>・ ご利用者へ直接アンケート調査を行う。（1月）</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者・家族への【満足度アンケート】は、2月に実施。アンケート結果は別紙の通り。利用者、家族ともに総体的に高い評価をいただくことができた。サービス内容を改善し、最良にするための貴重なご意見もいただいたので職員一同これからも利用者の立場に立ったサービス提供ができるよう努めていく。今年度も利用者に対し【興味、関心シート】を実施し、利用者一人一人の希望を把握し、それをもとに多職種で話し合い個別活動の計画をたて実行した。</li> <li>・ 第三者委員による聞き取り調査は、12月に実施。アンケート結果は別紙の通り。アンケート結果は職員に回覧し、利用者のサービスに対する評価を共有した。更にサービスの質の向上に向けて取り組む。</li> </ul>

利用者の安全保障

課題	火災による避難訓練が年2回行えていない
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度初めに防災委員会で訓練の予定を決める。</li> <li>・ 様々な状況を想定した職員の参集計画や利用者の連絡網などを整備する。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度当初に6月と12月に避難訓練を計画をしたが、6月は新型コロナ感染症拡大予防の為消防署の協力が得られず延期となり、10月に実施。12月は1回目の避難訓練から日が経っていないことと感染予防の観点から中止とし、今年度の訓練は1回のみの実施となった。</li> <li>・ 6月にアルソックの火災通報装置と連動した連絡網の見直し及び職員の連絡網を整備。3月に緊急連絡網の伝達訓練を実施。緊急連絡網に基づき施設長から発出した連絡が全職員に伝わるまで何時間も要し、繰り返し訓練の必要性を感じた。</li> </ul>
課題	ひやりはつとや事故に至るまでの危険予測やご利用者の状態把握が十分でない
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々のご利用者の状態、行動を情報共有し周知する。過去のヒヤリハットや事故記録を検証し、事故発生防止のため、半年に1回危険予測訓練やシュミレーションを実施する。あわせて安心、安全、快適な環境整備を行っていく。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスクマネジメント委員会で年一回危険予測トレーニングを実施し、リスクに気づくことを学んだ。今後もトレーニングを継続して実施する予定。 【ヒヤリハット件数】 R2年度（12件） R3年度（19件）</li> <li>・ 事故やヒヤリハットは、発生後速やかに記録し職員に周知することで情報共有を図り、リスク防止への意識を高めた。また、利用者が過ごす環境に危険な個所がないか年に数回、確認と検討を行った。【事故件数】 R2年度（39件） R3年度（32件）</li> </ul>

福祉ニーズに即したサービスの提供

課題	地域交流が減っている
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン接種が進み感染の恐れがなくなったら、地域ボランティアの受け入れを再開する。</li> <li>・3ヵ月に1回広報誌やホームページ作成し、デイサービスの様子を利用者家族、地域の方に発信していく。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスで過ごす利用者の様子や行事に参加されている様子を3か月に1回新聞やホームページなどで情報発信した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、社協主催のサマーボランティア、福祉高校の職場実習は中止。市・県主催の学生職場体験は感染対策を十分に取ながら少数の学生の受け入れを行った。定期ボランティアは毎月の役職会議で話し合い、4,5,10,11,12月は受け入れを行い、ふれあいや囲碁活動など利用者の活動に活気を与えていただいた。</li> <li>活動満足度を上げるためにボランティアの存在は不可欠であり、感染の危険性が低くなれば継続して来てもらえるよう引き続きお願いしていく。</li> </ul>

人材確保

課題	職員の離職を防ぐ
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再雇用や定年制の見直しなど、働き続けられる職場となるよう規定や就業規則の見直しもおこなっていく。</li> <li>・業務の見直しを行うことで事務処理の効率化と時間外勤務の削減をし、職員のワークバランスにつながるようにする。</li> <li>・面談を年に1回または必要時に行き、不安や希望を聴き、新年度当初に設定した個人目標の達成度及びスキルアップなどについて振り返りを行う。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて職員と面談の機会を持ち、勤務についての不安や希望などを聞いて、働きやすい職場になるように相談、検討を行った。</li> <li>・人手不足解消と優秀な従業員に長期にわたり活躍してもらえるように、規定や就業規則の見直しを行った。</li> <li>・利用者人数が増えたため送迎の職員が不足し、パート職員に時間外勤務で出してもらっている。育児休業で職員が一人減のところを皆で補いながら業務に当たっているため、業務改善を行っても時間外勤務の削減は難しかった。</li> </ul>

人材育成

課題	新規採用者や新人職員を育成し、職員の指導力のレベルアップを図る
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場にいる職員が指導職員不在時などには指導ができるようにする必要がある。そのため、新人指導マニュアルを作成し、指導職員以外であっても同じように指導ができるようにする。</li> <li>・高校や専門学校の実習生を教育することで、職員の指導スキルが向上する。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人指導マニュアルは現在の時点で未完成。令和3年度に採用された職員には業務別で各2名ずつ担当職員をつけ、必ず2人のうちどちらかが指導できるようにした。資料は既存のものを使い、指導を行った。業務終わりに振り返りを行うことが疑問や不安な点などを減らし育成効果を高めたと感じる。</li> <li>・コロナ感染拡大予防のため、高校や専門学校の実習は中止。</li> </ul>

業務改善

課題	令和3年度 報酬改定について
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改定内容を的確に把握し、職員研修を行い適正な事業運営を行う。</li> <li>・既存のマニュアルを年1回及び必要に応じて整備する。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月からのサービス利用料金や取得する加算について理解を深めるため職員に説明を行った。</li> <li>・マニュアルは必要時確認したが変更箇所はなく、そのまま更新した。</li> </ul>

収支の安定化

課題	規模の変更による減収、利用率の向上
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通所介護事業においては担当者会議などで七尾苑の強みを宣伝し、新規のお願いをする。毎月居宅介護支援事業所への空き情報のお知らせ以外にも、ホームページへも空き情報の公開を行う。また居宅への毎月の報告時などでの情報交換、担当者会議時などで利用者獲得につながるようにアピールしていく。</li> <li>・機能訓練加算が確実に取得できるように専門職を安定的に配置できるようにする。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回数増回や新規利用受け入れの依頼は担当者会議や電話連絡時に随時お願いしているが、引き続き七尾苑の強みをアピールして売り込んでいく。</li> <li>・機能訓練士が入職したことでリハビリ目的の新規利用者が増加し、利用者アンケートでも96%の利用者が「機能訓練に満足している」と回答している。</li> <li>・特殊浴槽で介護度が高い方も入浴でき、リハビリも充実して食事も美味しいと利用者、家族、ケアマネから評判が良い。新規の紹介は今年度45件あった。</li> </ul>

2 数値目標

事業	目標値	実績	
通所介護事業	88.0%	79.3%	年間の利用予定数は10,528名、利用実績は9,912名。利用者を増やす、増回してもらおう、欠席対策として振替利用の促進をする、加算取得の検討等行ったが、介護度と利用頻度が高い方の入院、入所、死亡が多く目標値の設定も高すぎたため目標に届かなかった。

3 利用実績

(1)通所介護事業・総合事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日	26	26	26	27	26	26	26	26	27	26	24	27	313
延定員	1040	1040	1040	1080	1040	1040	1040	1040	1080	1040	960	1080	12520
延実績	820	829	822	888	787	823	845	848	839	755	794	862	9912
要支援1	25	20	23	22	21	19	17	12	14	12	20	19	224
要支援2	46	44	34	44	45	41	41	52	47	49	51	55	549
要介護1	362	359	380	391	339	352	355	368	374	346	355	358	4339
要介護2	200	217	194	230	213	254	262	242	228	186	184	229	2639
要介護3	82	68	73	74	46	52	83	76	97	79	91	97	918
要介護4	71	97	99	105	95	69	53	65	52	42	41	54	843
要介護5	34	24	18	22	28	36	34	33	27	41	52	50	399
加算の算定状況	入浴介助加算			個別機能訓練加算			個別機能訓練加算			認知症加算			
	サービス提供体制加算			処遇改善加算			運動機能向上加算(総合)						
平均利用者数	31.7人												
平均要介護度	1.8												
平均利用率	79.3%												

(2)生活支援ハウス

入居者の状況

月	月末在籍数	新規入所者数				退所者数					
		在宅から	病院から	施設から	計	在宅へ	長期入院	他施設へ	死亡	その他	計
4	8	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
5	9	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
6	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	10	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
8	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
12	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2	9	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	110	5	0	0	5	0	0	2	0	0	2

4 職員研修の参加状況

派遣研修・講習等

研修名称	開催年月	参加者数
福祉職員キャリアパス対応生涯研修チームリーダーコース	5月25日～5月26日	1名
” 初任者研修	7月29日～7月30日	1名
” 中堅コース	7月8日～7月9日	1名
運動機能訓練について知ろう	7月12日	1名
メンタルヘルス研修	8月19日	1名
甲種防火管理新規講習	8月25日～8月26日	1名
中堅職員スキルアップ研修	9月2日	1名
コミュニケーション力向上研修会	9月22日	1名
「知ろう、語ろう、相談しよう会」	10月7日	2名
「PCAについて」	11月25日	1名
中堅職員スキルアップ研修	12月14日	1名
高齢者虐待研修	12月7日	1名
リスクマネジメント研修	8月25日～8月26日	1名
HACCP導入支援セミナー	9月2日	1名